

史跡長久手古戦場保存活用計画策定について

1 策定趣旨

史跡長久手古戦場の価値や構成要素を明確にし、将来にわたって良好な状態で確実に保存し、市民をはじめ、誰もが活用しやすい環境に整えることを目的とする。そのための保存と管理、整備や活用に関する基本方針を定めるものである。

2 策定状況

平成28年度 史跡長久手古戦場保存活用計画（古戦場公園）策定

平成29年度 史跡長久手古戦場保存活用計画（武蔵塚外3か所）策定中

3 長久手古戦場の本質的価値

歴史的事実、現在の保護の状況から、史跡長久手古戦場の本質的価値を以下のように考えている。

- (1) 小牧・長久手の戦いは、秀吉と家康がたった一度直接対決した戦いとして知られており、徳川幕府成立の足掛かりとして重要な位置づけがされていること。
- (2) 「古戦場」として、江戸、明治時代から現在まで保存、顕彰が行われ、良好な状態で石標や顕彰碑が残されていること。
- (3) 合戦時、御旗山や色金山は、戦況が見渡せる場所として、家康軍の軍議が開かれるなど、眺望に優れた場所であったこと。現在は、樹木が繁茂しているが、その特徴に変化はないこと。

4 現状報告

平成28年度、古戦場公園に係る史跡長久手古戦場保存活用計画を策定した。今年度は、古戦場公園以外の国指定史跡部分の測量調査等を実施し、史跡長久手古戦場全体を現況把握し、本質的価値に基づき、史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会で史跡の構成要素や保存管理、活用、整備の方針をまとめている。

第3回史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会は、平成29年10月中旬頃に開催を予定している。

(1) 史跡を構成する要素と分類

裏面のとおり

(2) 現状変更の取扱基準について

現在、多くの内容が文化庁及び愛知県との協議により、現状変更の許可に関する事務を行うことになっているが、保存活用計画を文化庁及び愛知県と協議を行いながら策定することで、保存管理の基準となる現状変更の基準が明確化し、本市教育委員会で判断が可能となる内容が増え、整備や活用が活発化させることが可能となる。

史跡を構成する要素と分類

史跡の構成要素を特定し、それらの枢要度合いに応じて、分類することにより、史跡の保存、活用、整備に関する課題の整理や方針、方法を定める。

◆ 史跡を構成する要素

分類	場所	本質的価値を構成する要素	保存・活用に有効な要素	管理上調整が必要な要素
史跡を構成する要素	長久手古戦場	石碑等 勝入塚 明和の碑 明治の碑 石碑を取巻く石柵、石組み 庄九郎塚 明和の碑 明治の碑 石碑を取巻く石柵、石組み 二本松塚→H29年度作成 武蔵塚 →H29年度作成 地形 樹木 眺望 埋蔵文化財（推定）	園路 石碑 （公園名板その1） ベンチ 石造物	看板類 時計塔 車止め 植栽・樹木 占用施設（電気支線、ガス管）
	附 御旗山	石碑 地形 眺望 樹木	富士社社殿	
	附 首塚	石碑	小堂	
	附 色金山	石碑 眺望 地形 樹木		

※今後、附部分等の調査を実施し、構成要素を追加していく。

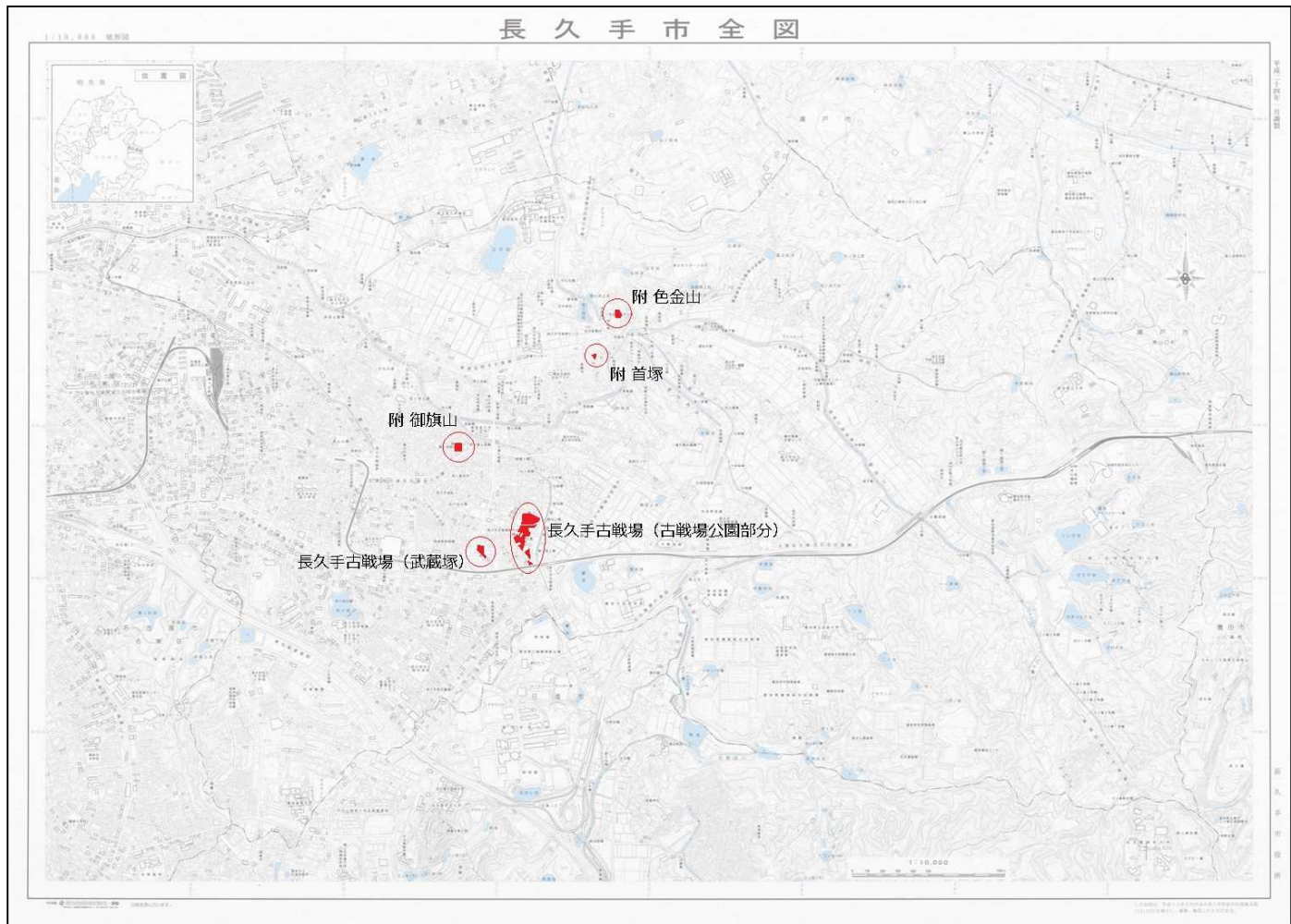
◆ 史跡の周辺環境を構成する要素

分類	場所	本質的価値に密接に関係する要素	保存・活用に資する要素	本質的価値に関係しない要素
史跡の周辺環境を構成する要素	長久手古戦場	長久手古戦場野外活動施設（長久手市郷土資料室）	緑地 駐車場 長久手古戦場野外活動施設（その他施設） 石碑（公園名板その2）	縮景（庭園） 工作物（石積、四阿、ベンチ等） 地下埋設物（給水管、ガス管、污水管、防火水槽）
	附 御旗山			
	附 首塚			
	附 色金山	色金山歴史公園 安昌寺		

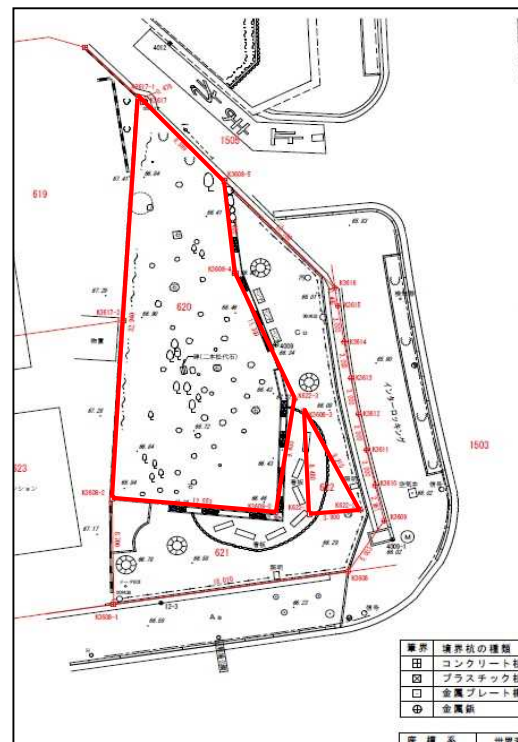
※今後、附部分等の調査を実施し、構成要素を追加していく。

参考

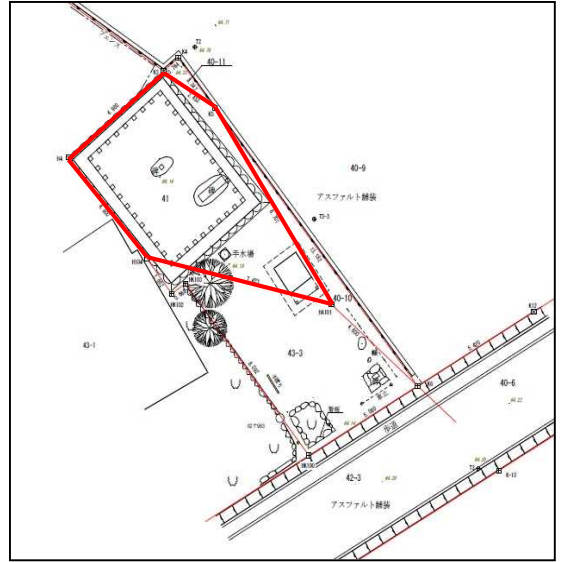
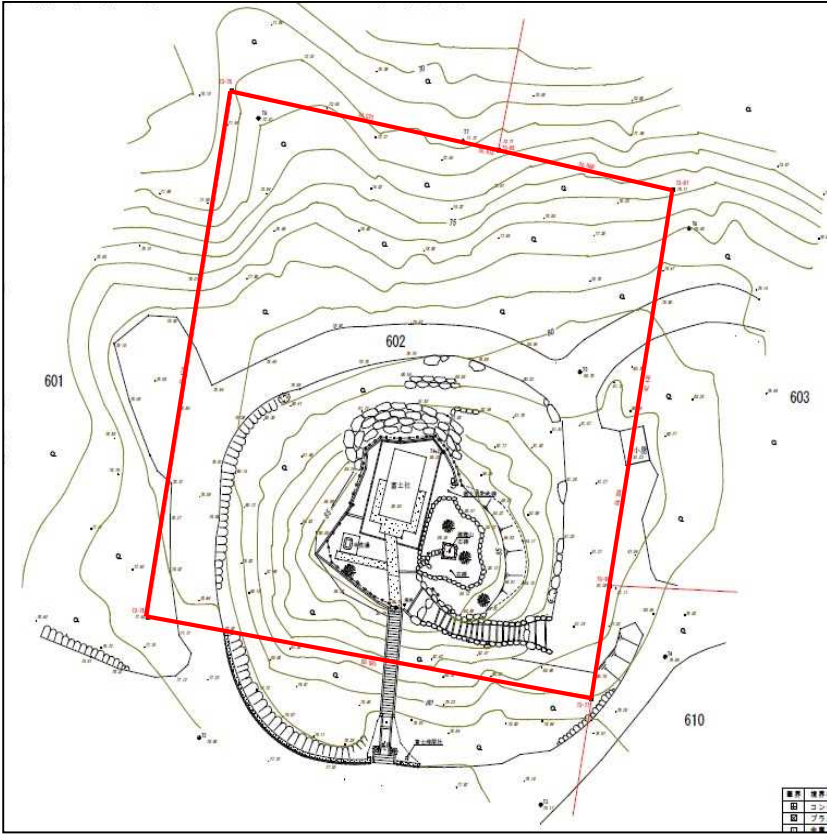
□史跡指定範囲



□史跡測量図面

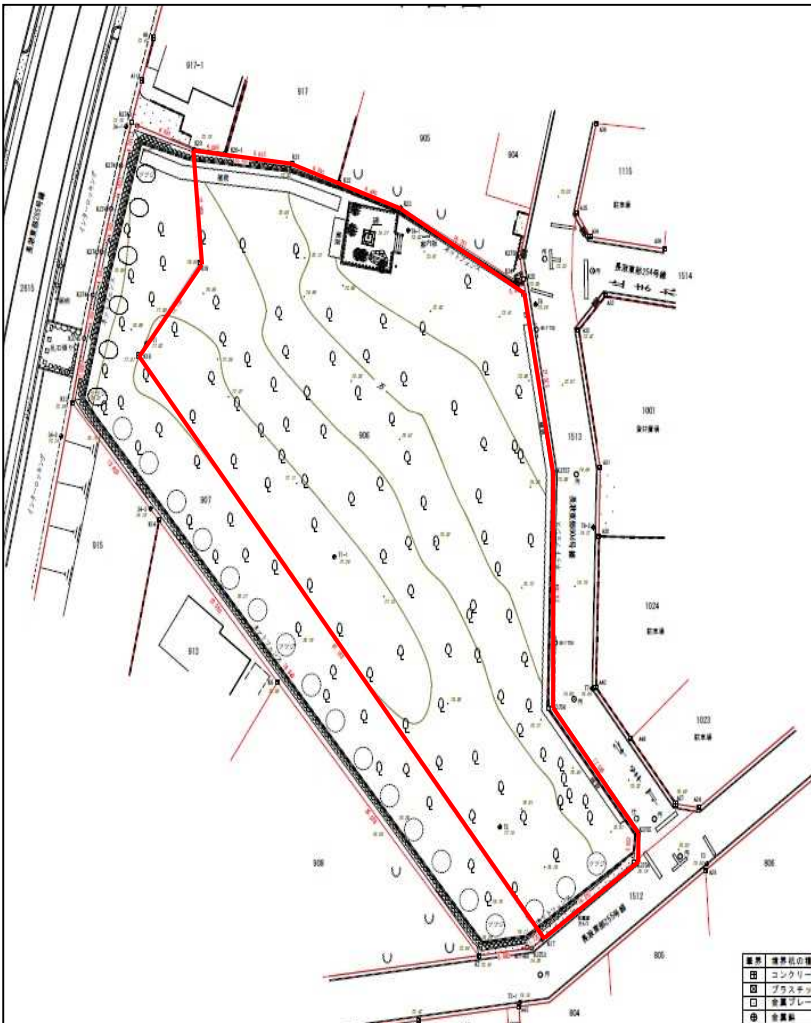


長久手古戦場 (古戦場公園)

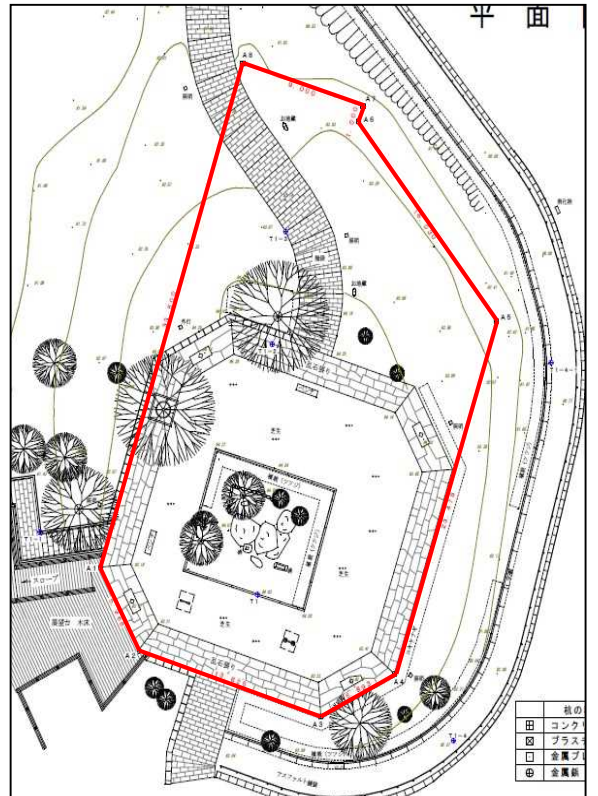


附 首塚

附 御旗山



附 長久手古戦場（武蔵塚）



附 色金山